

押上・とうきょうスカイツリー駅の 「これまで」と「これから」



業平橋駅（現とうきょうスカイツリー駅）
駅地平ホーム（平成15年）



北十間川



東京スカイツリー計画地



押上駅（昭和61年）



同潤会中之郷アパート

これまで



連続立体交差事業



北十間川



東京スカイツリー・ソラマチ®



押上駅前自転車駐輪場



セトル中之郷

いま



歩きたくなるまち
（居心地が良く歩きたくなるまちなか、国土交通省）

これから



サートプレイスのあるまち
（身体活動を促すまちづくりデザインガイド）



災害に備えたまち
（三鷹中央防災公園 三鷹市）

東京スカイツリー®が
できるまで

平成20年7月14日 着工



平成20年11月19日撮影



平成21年6月23日撮影



平成21年9月28日撮影



平成22年2月16日撮影



平成22年8月4日撮影



平成23年3月18日撮影



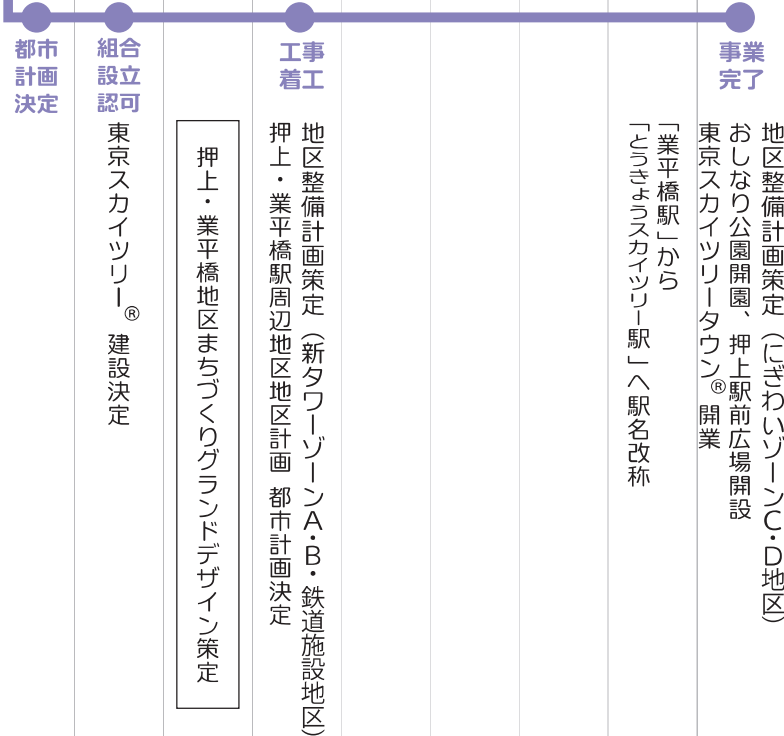
平成24年3月21日撮影

平成24年2月29日 竣工

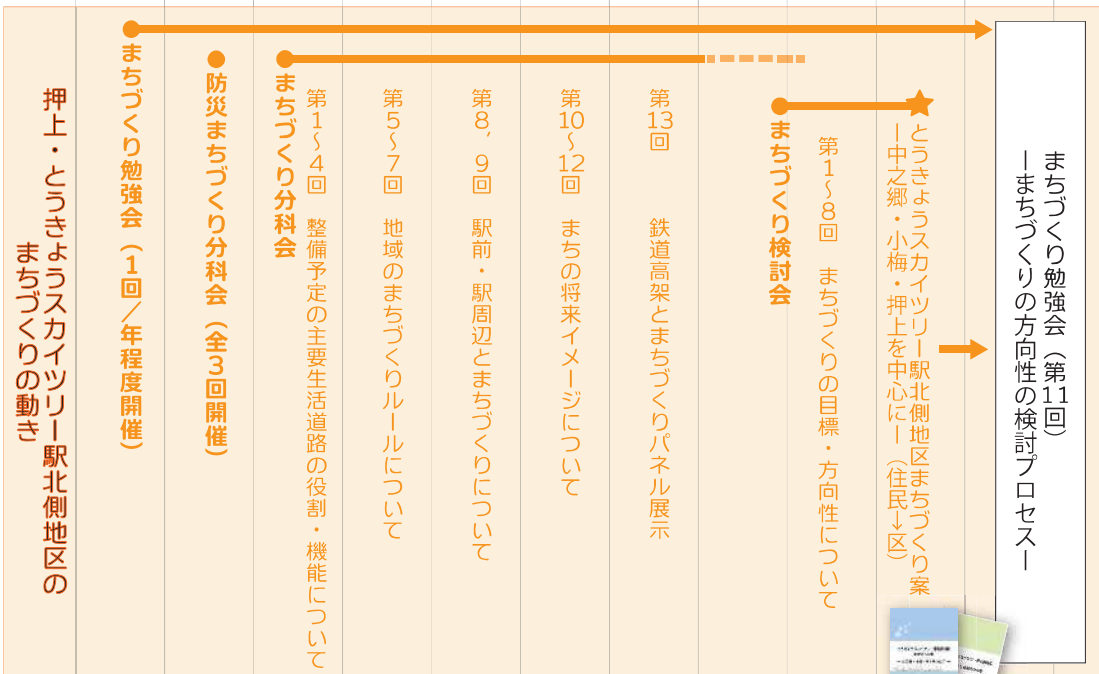
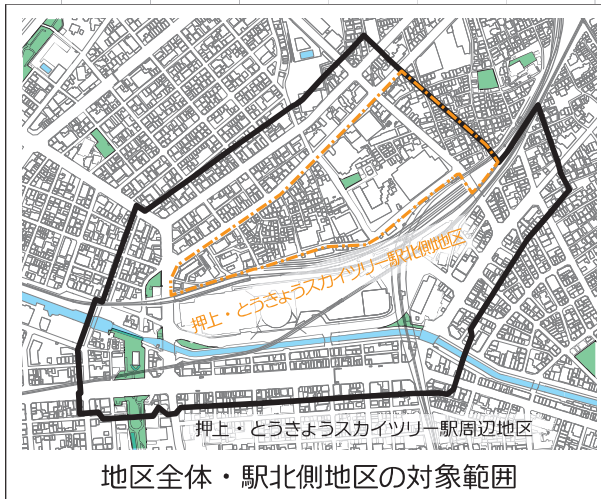
押上・とうきょうスカイツリー駅周辺地区のまちづくり

平成	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	令和元	2	3	4	5	6	7	(年度)
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	---	---	---	---	---	---	------

押上・業平橋駅周辺土地区画整理事業



東武伊勢崎線連続立体交差事業



東武伊勢崎線、東京メトロ半蔵門線「押上駅」開設

押上・とうきょうスカイツリー駅周辺地区の位置付け

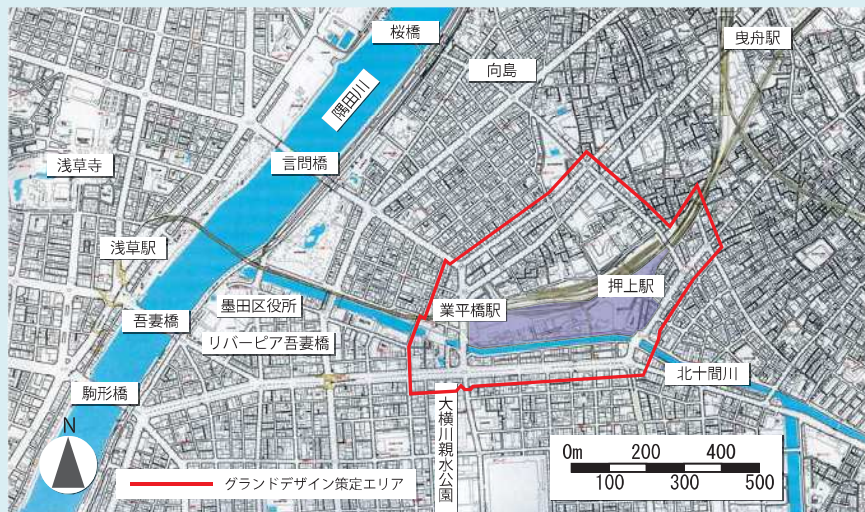
【押上・業平橋地区まちづくりグランドデザイン】

◆コンセプト

新しい歴史を創造する 下町文化創成拠点

長く培われてきた下町文化と、新タワーによりもたらされる先進機能とを融合させ、安全安心で環境にやさしい観光拠点として国際都市東京の一翼を担います。

◆策定エリア



※業平橋駅は、現在のとうきょうスカイツリー駅となります

◆まちづくり方針(将来都市像の4つのテーマ)

都市文化を楽しむまち

先進性

先進性のシンボルとなるタワーを中心として、人々を楽しませるこれまでにないエンターテインメント空間として整備します



歴史文化

すみだ古来の下町情緒を感じさせる街並みを表現しながら、地域の歴史的観光資源へと導く玄関口として整備します



安全安心で災害に強いまち

避難地

緑あふれるオープンスペースを災害時の避難空間として確保し、広域的な情報発信拠点として整備します



防災シンボル

防災活動の推進に資するシンボル性を有した防災空間として整備します



地球にやさしい水と緑のまち

環境共生

人と自然環境との調和を図るため、公園と河川が一体となった景観を形成し、魅力的な水辺空間を整備します



持続可能

最新の省エネ技術、屋上緑化、雨水利用、リサイクルシステムなどの導入により、環境への負荷の低い都市として整備します



人にやさしい移動しやすいまち

ユニバーサル

外国人や高齢者などさまざまな来街者に対応するため、安全でわかりやすい移動空間の整備を図ります



交通ターミナル

多様な交通手段の提供により、地域回遊性の高い便利な交通結節点として整備します

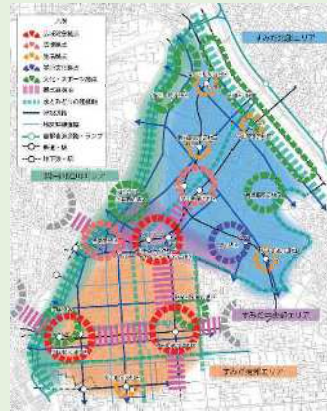


【墨田区都市計画マスタープラン】

地域別構想

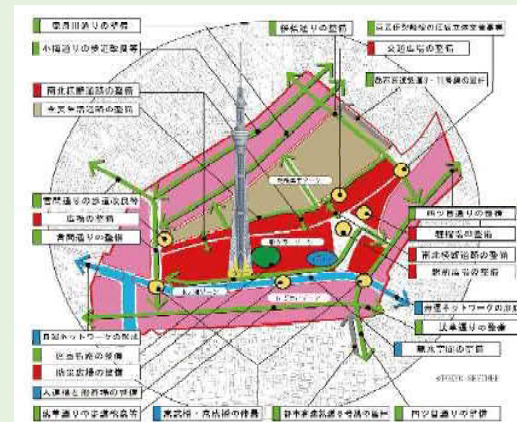
墨田区のほぼ中央に位置し、4線が集中する交通結点で東京スカイツリー®の開業により多くの人々が訪れるようになり、区内各所を結び観光拠点としての性格を持った地域です。

今後も高度な商業・業務・文化・居住機能の集積を図るとともに、高い防災性を備えつつ、北十間川との連続性を創出するなど周辺の開発整備とあわせた魅力ある快適な都市空間を形成し、多機能な広域総合拠点として整備・育成します。



主要推進プロジェクト

全体を4つのゾーン(新タワーゾーン、機能再生ゾーン、にぎわいゾーン、水と緑ゾーン)に分け、特性に応じた機能分担を図るとともに、ゾーン内外にわたって歩行者が安全で快適に移動できるように、ユニバーサルデザインに配慮した人にやさしい空間の形成に配慮して進めていきます。



【押上・とうきょうスカイツリー駅周辺地区地区計画】

「都市文化を楽しむまち」「安全安心で災害に強いまち」「地球にやさしい水と緑のまち」「人にやさしい移動しやすいまち」の4つの整備目標を将来都市像として掲げ、「広域総合拠点」にふさわしい良質な複合市街地形成の実現を図ります。

◆新タワーゾーン

- ・広域総合拠点の中枢として、都市基盤整備を行うとともに、新タワーのシンボル性を活かした観光・防災機能の強化を図ります。
- ・商業・業務機能を核とした下町文化と都市文化が融合した新しい文化を発信する商業・業務地区の形成を図ります。

◆機能再生ゾーン

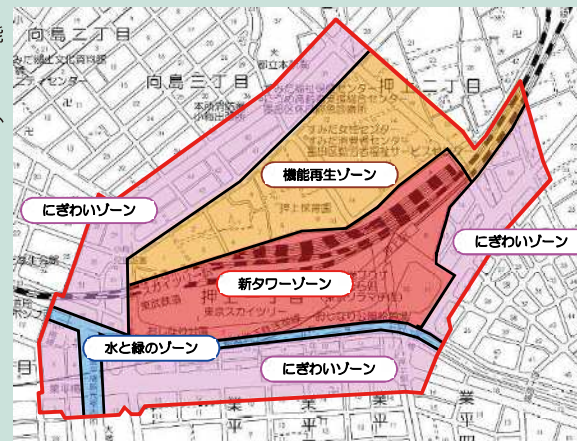
- ・土地の高度利用を促進して、商業・業務・文化・住宅機能の総合的な整備を図ります。
- ・主要生活道路の整備、建物の不燃化により災害に強いまちづくりを推進するとともに、日常生活空間を再生し、良好な環境を確保した複合地区の形成を図ります。

◆にぎわいゾーン

- ・新タワーと浅草につながる地域の商店街については、観光交流に資する商業及び業務施設を誘導し、駅前については、生活利便に資する商業施設の集積を図ることにより、連続性と賑わいのある複合地区として整備します。

◆水と緑ゾーン

- ・北十間川を舟運が可能な河川として整備します。また、親水空間を整備し、景観と緑の基本軸として水と緑の潤いある景観を形成します。



環境共生・持続可能

北十間川

賑わい創出と観光回遊性向上を目的として、水辺を中心とした一体的な整備及びまちづくりが行われました。墨田区と東武鉄道株式会社による官民連携によって「すみだリバーウォーク」や「東京ミズマチ」、「墨田公園のリニューアル」等の施設を整備し、一連の取組(北十間川かわまちづくり)が評価され、都内初のかわまち大賞を受賞しました。



緑と花のまちづくり推進地域制度

町会や自治会などを対象に公募等により「緑と花の推進地域」を選定し、広がりや視覚的効果のある場所にプランター等を設置して、緑と花のサポーターの協力を得ながら、区が助成する花種・花苗・土・肥料などを使い地域の方が植栽・維持管理を行っています。



中でも、東京スカイツリー®に隣接する北十間川沿いに設置されたプランターやハンギングバスケットは、墨田区に訪れる多くの観光客及び区民のみなさまに「うるおい」と「やすらぎ」を感じていただいております。現在、区内25箇所で事業を実施しています。

押上・とうきょうスカイツリー駅周辺地区内の環境配慮の取組例

立体緑化
(東京スカイツリータウン)



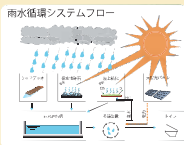
実感できる緑化率の向上に努め、地上の沿道緑化、建物低層部の植栽バルコニー、つる植物による緑のカーテン、壁面緑化など、「緑の丘」を実現されています。緑化面積は、約8,100㎡です。

CO2を食べる自販機導入
(東京スカイツリータウン)



オフィシャルパートナーであるアサヒ飲料株式会社のSDGsの理念に賛同し、自動販売機の庫内にCO2を吸収する特殊材を搭載した「CO2を食べる自販機」を2023年6月から設置されています。2024年8月現在、東京スカイツリータウン内に8台設置され、大気中のCO2を吸収し、脱炭素社会の実現に貢献しています。

環境配慮雨水循環屋根(COOL ROOF)システム
(押上駅前自転車駐車場)



「COOL ROOF」はウッドデッキ部、保水砕石部、緑化部から構成され、雨水の有効利用率を最大化するよう、それぞれが適切な割合で計画されています。また太陽光発電により、照明や雨水ろ過装置に電力を供給し、自然エネルギーの循環を創出しています。蒸発・蒸散作用による夏季日射熱負荷低減と合わせ、曲面形状の頂部開口により生まれる自然風の抜け道により、空調なしでの快適な室内環境を目指しています。

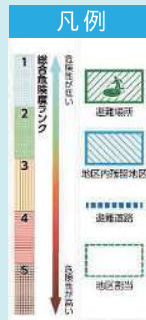
デッキに降った雨はそのまま雨水貯留槽へ流れ、いわば雨水の集水装置として機能しています。保水砕石部では、多孔質の砕石が、その微細な穴に多くの雨を保持し、雨水の流出を抑制しています。保持した雨を蒸発させ、周囲の気温上昇を抑え、ヒートアイランド防止にも寄与しています。また材料には廃土を使用し、資源の有効活用を図ります。

その他太陽光パネルの設置や照明制御等により、環境に配慮した取組を実施しています。

災害時の備え

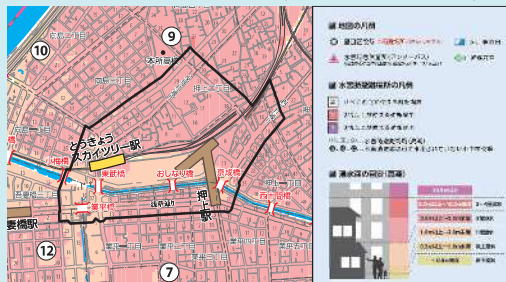
地域危険度

東京都は、概ね5年ごとに地震に関する地域危険度測定調査を実施しており、「建物倒壊危険度」「火災危険度」に災害時活動困難を指標に取り入れて、地域の総合危険度を示しています。



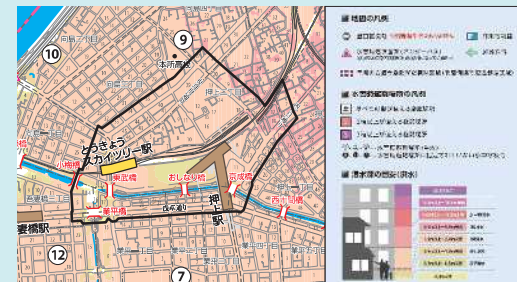
町丁目	総合危険度 順位	ランク
東駒形4丁目	1800	2
吾妻橋3丁目	2681	2
業平1丁目	1696	2
業平2丁目	1249	2
業平3丁目	2093	2
業平4丁目	1217	2
向島1丁目	1458	2
向島3丁目	1241	2
向島4丁目	83	5
押上1丁目	2072	2
押上2丁目	248	4
押上3丁目	9	5

浸水想定区域図(荒川氾濫時)



近年の気象変動の影響により、台風や長雨による大規模な水害が発生し、多くの被害が発生しています。海拔0メートル地帯である墨田区においても、大きな影響を及ぼすことが予想されています。

高潮浸水想定区域図



広域避難場所等

避難場所 隅田区役所・隅田公園広場一帯

墨田区役所、隅田公園、小梅小学校(指定避難所)

防災船着場 **震災対応型トイレ**

上記避難場所以外にも区立小中学校が指定避難所、地区内の高校が一時的な施設として定められています。

避難場所 都営文花一丁目住宅一帯

都営文花一丁目住宅、文化一丁目緑地広場、あずま百樹園、文化宮前公園、千葉大学墨田サテライトキャンパス、IT情報経営イノベーション専門職大学、文化中学校(指定避難所)

震災対応型トイレ

上記避難場所以外にも区立小学校が指定避難所として定められています。



避難場所 J周辺一帯

大橋川親水公園、横川一丁目こども広場、業平橋住宅、トミンハイム横川一丁目、JT広場、業平公園、業平小学校(指定避難所)

震災対応型トイレ

上記避難場所以外にも区立小学校が指定避難所として定められています。

出典:墨田区防災マップ

ランドデザイン策定エリア内の防災拠点

震災対応型トイレ

中之郷児童遊園、東武橋際公衆トイレ

防災船着場 おしなり公園

東京スカイツリー・東京ソラマチについて

東京スカイツリータウン内のスカイアリーナスペースは災害時には防災広場等として地域に開放されることになっています。

▼危機管理ベースの設置
「東京ソラマチ」の「エースタード」2階に、3000人分の食糧品、防災用具等を備蓄する食庫を設置。なお、災害時には防災無線司令室、活動スペースとして活用する予定です。

▼高所カメラの設置
東京スカイツリーの高さ260m地点に、高所カメラを2台設置し、災害時における区内の被災状況や避難所の状況などを把握できます。平常時は、火災の状況確認に活用します。なお、カメラ画像については区役所5階の防災センターでも確認し、災害対応に役立てます。

▼災害時の生活用水の確保
区では、東京スカイツリータウン内に設置されている蓄熱層の水を、災害時に避難者の生活用水として提供してもらうため、東武エネルギーマネジメント(株)と協定を結びました。災害時には、蓄熱層の水を給水タンクにポンプで汲み上げ、トラックに搭載し各避難所に運び、避難所では、トイレの洗浄や手洗い等の生活用水を活用する予定です。

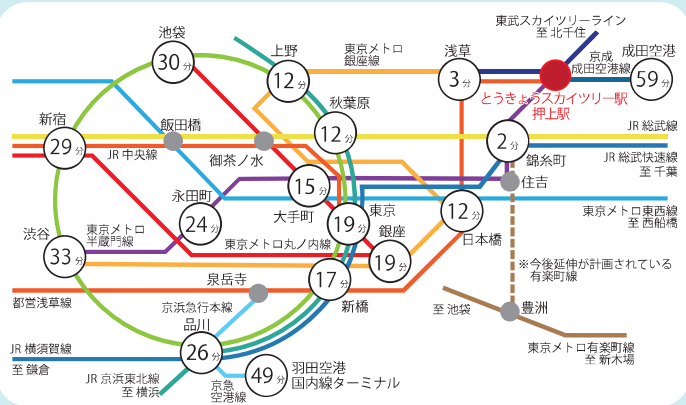
広域・近隣への交通利便性

【移動手段】



【主要駅からのアクセス】

とうきょうスカイツリー駅・押上駅は複数の路線が乗り入れており、都心へのアクセスが良く、また、成田空港には乗り換えなしでアクセスでき、観光客も訪れやすい場所となっています。



【バリアフリーの取組】



都市文化をたのしむ

【先進性】

◆東京スカイツリータウン

東京スカイツリータウンは、電波塔「東京スカイツリー」、商業施設「東京ソラマチ」、オフィス施設「東京スカイツリーイーストタワー」の3つの施設を中心に、水族館やドームシアターなども併設した広さ約3.69haの新しい街です。



水族館 すみだ水族館 展示型的水族館にとどまらず、学習機能を兼ね備えたすみだ水族館	東京スカイツリー TOKYO SKYTREE 日本古来の技と最新技術に支えられた、新しい街のシンボル	東京ソラマチ TOKYO Solamachi 観光、ショッピング、毎日のお買物といった様々な人々が楽しみ集う商業施設	プラネタリウム 天空 in TOKYO SKYTREE TOWN 星空の感動を体験できる、コニカミルタプラネタリウム天空in東京スカイツリータウン	東京スカイツリーイーストタワー EAST TOWER 抜群のロケーションを誇る、17層約7700坪のオフィスビル
--	---	---	--	---

【歴史文化】

◆ものづくり

コネクトすみだまち処

・墨田区の名産品が購入できるお店です。季節ごとに区内製品を入れ替えて、販売しています。



屏風博物館

・小さな博物館では、屏風の製作道具を、屏風の成り立ちとともに見学できます。

・併設の工房ショップでは、多種多様な屏風を購入できるほか、写真や着物を屏風に仕立てるオーダーもできます。

・からくり屏風の製作体験も可能です。



漆工博物館

・漆塗りの製作道具や工程、すみだマイスターの安宅信太郎さんが過去に手がけた修理・修復の写真を展示しています。



硝子企画舎プリズムプラス

・電気炉を使ったギルンワークという技法でガラス作品を製作する工房です。

・工房に併設されたギャラリー「プリズムプラス」では定期的に作品展を実施しており、作品を購入することができます。



おみねたん

・すみだマイスターの小峰正孝さんが製造した藤(とうまつたん)とも呼ばれる)製品の製造・販売を行っています。

・店内には、藤製品の材料や製造工程も飾っています。



押上・とうきょうスカイツリー駅北側地区のまちづくり

【まちづくり勉強会の開催(令和6年7月)】

「押上・とうきょうスカイツリー駅周辺まちづくり勉強会(第11回)」を令和6年7月2日(火)に開催しました。

令和5年3月に、住民の皆様から墨田区へ提出された「とうきょうスカイツリー駅北側地区まちづくり案一中之郷・小梅・押上を中心に」を受けて、墨田区が考えるまちづくりの方向性(視点)や今後の取り組みについて説明し、意見交換を行いました。

まちづくり勉強会で説明した「まちづくりの方向性の検討プロセス」を右に示します。



■まちづくりの方向性を示す範囲



【まちづくりの方向性の検討プロセス】

墨田区の考える「まちづくりの方向性(視点)」について、墨田区の既存の計画、まちづくりの潮流、まちの状況、まちづくり住民案をもとに整理しました。今後、まちづくりの方向性を踏まえたまちの将来像について検討していきます。

① 墨田区の計画

- ・墨田区基本計画
- ・墨田区都市計画マスタープラン

② まちづくりの潮流

- ・人中心のまちなか
- ・気候変動等による災害に備えたまちづくり
- ・サードプレイス

③ まちの状況

- ・老朽化した建築物が密集している
- ・水害時の垂直避難ができない
- ・最寄品を扱う施設が不足している
- ・南北の行き来がしづらい
- ・鉄道4路線が乗り入れている
- ・観光名所が周辺に立地している

④ まちづくり住民案

- ・地域住民が掲げるまちづくりの目標

暮らし

ここで暮らすみんなが集まれる場所があり、コミュニティと良好な住環境を発展させていくまち

楽しむ

住民も来街者もまちの魅力を発見でき、緑豊かな空間と落ち着いたにぎわいがあるまち

防災

地震・火災・水害に強い市街地と、地域で対応できるコミュニティにより、誰もが助かるまち

まちづくりの方向性(視点)

防災

強さとしなやかさで
対応する災害に強いまち

建物の不燃化・耐震化、立体的な避難路や退避場所を確保することにより、地震・火災・水害に備えるとともに、発災時も罹災後も生存機能が停止しない、災害に強く災害を受け流す防災・減災のまちを目指します

にぎわい

誰もが楽しめる
にぎわいのあるまち

歩きやすい歩行者空間を整備することにより、地域コミュニティが活性化されるとともに、周辺の観光資源との回遊性が生まれ、住民も来街者も楽しめるにぎわいのあるまちを目指します

住環境

利便性と心地良さを
兼ね備える良質なまち

良質な最寄品を扱う生活利便施設などを誘導することにより身近な暮らしの豊かさを高めるとともに、多様な世代が関わりつなされる住みよいまちを目指します

南北のつながり

南北市街地の
一体性の強化

鉄道高架化によって南北を行き来しやすくなることで、人の往来を生み出し、鉄道南北の市街地の一体的なにぎわいの創出を目指します

今後、方向性を踏まえたまちの将来像について検討していきます